

第4回下丸子駅周辺地区のまちの将来を考える会

日 時：令和4年5月30日（月）18：00～20：00

場 所：大田区民プラザ 第1・2会議室

参加者：14名（傍聴者6名）

■議事概要

（1）これまでの振り返りと今年度の取り組み目標

- ・事務局より、第1回から第3回までの取組内容及び今後の進め方を参加者と共有した。また、5/16に実施した現地視察会（高架化事例：中央ラインモール、地下化事例：下北線路街）の結果として、「連立事業とそれにあわせたまちづくり事業によるまちの変化」「高架下空間及び鉄道上部空間の利活用」の視点から対象地の取組内容や考え方、それによる効果等を共有した。

（2）レクチャー

- ・（一社）おおたクリエイティブタウンセンター（以下、「OCTC」とする。）の野原センター長より、ワークショップに向けて「駅まち空間の整備の考え方」と「その先進事例」を紹介した。
- ・その中では、これまで駅の再整備とその周辺の機能や施設等の整備は個別に検討され、連携が図られていないケースも多くみられていた。
- ・駅とその周辺のまちを重要な都市の資源として捉え、一体的な空間として検討することにより、駅周辺の資源の有効活用が図られ相乗効果を発揮することができるなど、駅とその周辺のまちを一体的に検討することの重要性を説明された。
- ・また、現地視察会や先進事例等を踏まえ、今後の下丸子のまちづくりを検討するうえで大事な3つのポイントを挙げられた。

- | |
|--|
| ① 全体コンセプトを設定し、そのコンセプトを共有し取組を実践すること |
| ② 官・民が連携・協力し、一体的な空間として整備すること（官民境界をあいまいに） |
| ③ 空間をつかう人を育てること |

（3）ワークショップ

- ・「駅周辺の20年後の姿を考えよう！」をテーマに、3つのグループに分かれて以下の視点のもと意見交換を行った。

テーマ	駅周辺の20年後の姿を考えよう！
意見交換の視点	①駅周辺の20年後の姿 ②駅周辺に求められる機能・施設等

【Aグループ】

視点①：駅周辺の20年後の姿のキーワード

- ・「開放的な空間や緑」「歩行者中心の道路」「新旧のまちなみが共存している」「住民・企業・行政の連携」などがあり、居心地の良い活気のある空間を創出したい。

視点②：駅周辺に求められる機能・施設

- ・歴史や文化施設が集積し交通利便性が高く、地元住民が安心して暮らせることができる拠点機能がある施設求められている。

【B グループ】

視点①：駅周辺の20年後の姿のキーワード

- ・「水・空気・風が感じられる駅」「新宿のゴールデン街に似た路地裏や神社等の歴史を感じることができる」「障がい者に優しいまちづくり」「にぎわいや滞留の創出」などがあり、多様性に配慮し、歴史や自然環境と調和した空間を創出したい。

視点②：駅周辺に求められる機能・施設

- ・行政機能を持ち交通利便性が高く、交流やアートなどの憩いの場となる機能が求められている。

【C グループ】

視点①：駅周辺の20年後の姿のキーワード

- ・「学び・交流の場」「企業と協力し活性化」「どんな世代も歩きやすい空間」「よい自然を活かしたい」「イノベーション拠点」などがあり、自然や企業がある環境を活用し、学びや交流を通じて賑やかでくつろげる空間を創出したい。

視点②：駅周辺に求められる機能・施設

- ・だれもが安心できる遊びスペースや交通空間が整備され、自然資源や企業と協力して学びや交流を深めることができる拠点機能がある施設求められている。

(4) 講評

- ・(一社) OCTC の野原センター長よりワークショップの講評を行った。
- ・気になったポイントとしては、「人のため」といった意見が各グループから出てきていたこと。駅前広場は交通を優先して考えるため、なかなか人のための空間になりにくい面があるが、人中心の駅前広場を検討していくことが重要である。
- ・ユニバーサルデザインの観点についても各グループから意見が出ており、多様な人たちが活用できるよう検討していくことが必要である。
- ・他都市でも苦労はあったと思うが、実際に実現・運営されていることから実現可能である。今後も検討を継続し、いいまちをつくるために意見を吸収していきたい。

■勉強会の様子

